



ミラーージュ[®] フロアブル

殺菌剤

芝用

ガードを固める、夏を乗り切る。





ミラージュ
フロアブル

殺菌剤

芝用

特 長

- ストレスガード製剤技術を採用した殺菌剤
- 幅広い病害に安定した効果
- 夏期の継続的な予防散布で芝の健康とターフクオリティーを維持
- ベントグラスに対する影響が少ない有効成分
- 散布後の芝の美しい仕上がり

ストレスガード製剤技術とは？

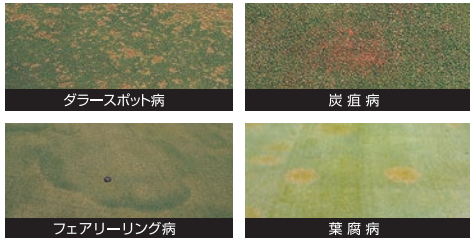
ストレスガード製剤技術は、UVB を効果的に遮断しつつ光阻害を緩和する、バイエルの独自技術です。この製剤技術を用いた殺菌剤を使用することにより、病害の防除はもちろん、芝のストレス軽減や色合いの向上など、ターフクオリティーを向上させることが可能となります。

グリーンの健康を維持するためには予防散布が重要

ミラージュフロアブルで春～秋に
発症しやすい病害を幅広く抑制

病気の発症率を抑えて
夏を乗り切る体力を維持

予防効果の最適化へ

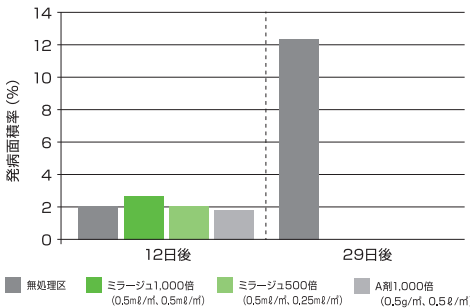


病害発生が起因する芝の生理障害にも注意。
グリーンの体力を奪う夏の日差しは脅威



高い効果を引き出す
薬剤ローテーションが
重要ポイントです

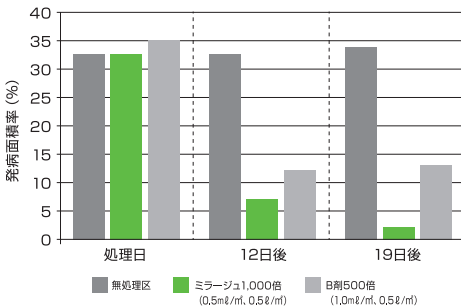
ダラススポット病に対する効果



試験場所：東日本グリーン研究所 処理時期：ダラススポット病発病後
処理日：2008年7月3日（無処理病害発生率2.0%）
調査日：2008年7月17日（14日後）（無処理病害発生率12.5%）
散布水量：0.25、0.5ℓ/㎡；ミラージュ0.5ℓ/㎡；対照剤
区制・面積：2㎡/区、3連制 草種・品種：ベントグラス（ベンクロス）

ミラージュは対照剤と比較して、
同等の効果が認められました。

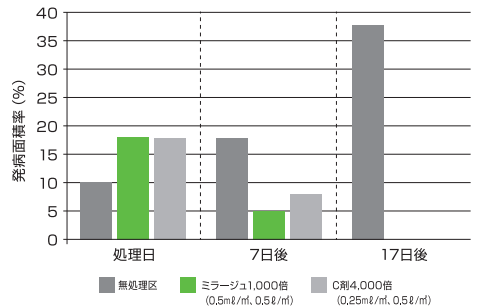
炭疽病に対する効果



試験場所：関西グリーン研究所 処理時期：炭疽病発病後
処理日：2009年5月21日（無処理病害発生率33.0%）6月1日（無処理病害発生率33.0%）
調査日：2009年6月9日（19日後）（無処理病害発生率34.0%）
散布水量：0.5ℓ/㎡ 区制・面積：2㎡/区、2連制
草種・品種：ベントグラス（ベンクロス）

ミラージュは対照剤と比較して、
高い効果が認められました。

葉腐病（ブラウンパッチ）に対する効果



試験場所：関西グリーン研究所 処理時期：葉腐病発病後（中発生）
処理日：2009年7月6日（無処理病害発生率10.0%）7月13日（無処理病害発生率18.0%）
調査日：2009年7月23日（17日後）（無処理病害発生率38.0%）
散布水量：0.5ℓ/㎡ 区制・面積：2㎡/区、2連制
草種・品種：ベントグラス（ベンクロス）

ミラージュは対照剤と同様に、2回目散布後、
非常に高い効果が認められました。

フェアリーリング病に対する効果

	希釈倍率	希釈水量 (ℓ/㎡)	区	7月28日	8月11日	9月1日	ベントグラス に対する薬害
				発生程度*	発生程度*	発生程度*	
ミラージュ フロアブル	1,000倍	0.5	I	±	±	—	—
			II	±	—	—	—
			III	++	±	±	—
C剤	2,000倍	0.5	I	+	±	±	—
			II	±	±	—	—
			III	+	±	±	—
無処理区	—	—	I	±	+	±	—
			II	++	++	++	—
			III	+	++	+	—

試験場所	西日本グリーン研究所
処理日	2009年7月28日、8月11日
散布水量	0.5ℓ/㎡
草種・品種	ベントグラス（ベンクロス）
処理時期	フェアリーリング病（ホコリタケ）
調査日	2009年8月11日（14日後）9月1日（35日後）
区制・面積	1㎡/区、3連制

*発生程度：+++（明瞭）～++～+～±～—（なし）までの5段階で評価

- ミラージュは対照剤と比較して防除効果がやや優れ、高い効果が認められました。
- ベントグラスに対する薬害は認められませんでした。

夏の病害ストレスに。 ストレスガード製剤技術を採用。



ストレスガード製剤を組み合わせた殺菌剤予防散布プログラム例

一般的な病害発生傾向の場合



散布時期	5月			6月			7月			8月			9月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
発生対象病害	藻類 炭疽病			藻類 フェアリーリング病 ダラスポット病			ブラウンパッチ ピシウム病 ダラスポット病			炭疽病 赤焼病			炭疽病 藻類 ダラスポット			
薬剤名	プロテクトWDG		シグネチャーWDG		ミラージュフロアブル		シグネチャーWDG		ミラージュフロアブル	インターフェース	シグネチャーWDG	プロテクトWDG	シグネチャーWDG		プロテクトWDG	ディケイトフロアブル

激発病害発生傾向の場合

散布時期	5月			6月			7月			8月			9月					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
発生対象病害	炭疽病 ダラスポット			藻類 炭疽病 フェアリーリング病 ダラスポット病 ピシウム病			藻類 ブラウンパッチ ピシウム病			赤焼病			炭疽病 藻類 ピシウム病 ダラスポット					
薬剤名	プロテクトWDG		ミラージュフロアブル	プロテクトWDG	A剤	インターフェース	シグネチャーWDG	A剤	プロテクトWDG	シグネチャーWDG	A剤	シグネチャーWDG	インターフェース	ピシウム専用剤	シグネチャーWDG	ミラージュフロアブル	プロテクトWDG	ディケイトフロアブル

注：病害発生時期およびその程度を鑑みて、使用する薬剤を変更してください。※プログラム散布についてのご質問は取扱代理店又はバイエル担当者にお尋ね下さい。

プログラム散布の効果（根量比較）

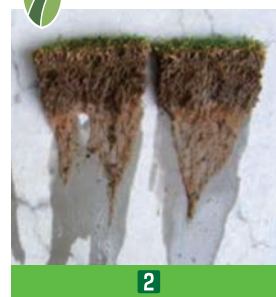
試験場所 茨城県Bゴルフ場 調査年月日 2013年9月6日



無処理区



1



2



3

	全散布回数	内訳
1 慣行殺菌剤散布区 (UVカット資材含む)	殺菌剤7回	UVカット資材6回、殺菌剤1回
2 ストレスガードプログラム	殺菌剤7回	シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ミラージュ1回(6月)、殺菌剤1回
3 ストレスガードプログラム (新提案)	殺菌剤7回	シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ミラージュ1回(6月) インターフェース1回(7月)

- ストレスガードを含むプログラム散布において(2、3)、夏越し後にベントグリーンの健全な根系が確認されました。
- インターフェースを加えることにより(3)、さらに健全な根系の生育が確認されました。

効率的プログラム散布のポイント

- 炭疽病・藻類の防除は発病前のプロテクトWDG散布が効果的です。
- ストレスガード製剤(シグネチャーWDG・ミラージュフロアブル・インターフェースフロアブル)は紫外線の強くなる5月頃からの散布が効果的です。
- 散布間隔は10日から14日を目安に散布してください。
- ピシウム専用剤のローテーションとしてシグネチャーWDGをお使いください。



ミラージュ
フロアブル

殺菌剤
芝用

農林水産省登録
第22802号

適用病害及び使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブコナゾールを含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	ダラスポット病	200~250倍	0.1ℓ/㎡	発病前~ 発病初期	6回以内	散布	6回以内
		500倍	0.25ℓ/㎡				
	炭疽病 フェアリーリング病 葉腐病(ブラウンパッチ)	1000倍	0.5ℓ/㎡				
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	400倍	0.2ℓ/㎡				

有効成分と性状

種類名	テブコナゾール水和剤
商品名	ミラージュフロアブル
有効成分	テブコナゾール 21.4%
性状	暗青緑色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	1ℓ×6本/箱

人畜・魚介類に対する安全性製剤)

人畜毒性 (急性) 普通物*	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
	眼刺激性	ウサギ	刺激性なし
	皮膚感作性	モルモット	皮膚感作性なし
水産動植物に 対する影響	コイ		LC ₅₀ 43.7mg/ℓ (96hr)
	オオミジンコ		EC ₅₀ 57.9mg/ℓ (48hr)
	藻類		ErC ₅₀ 14.9mg/ℓ (0-72hr)

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 使用量に合わせ薬量を調整し、使い切ってください。
- はくさい、だいこんにはかからないように注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守り、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 貯蔵上の注意事項

- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した場所に保管してください。(高温・吸湿しやすい条件下では、物理的性状が劣化するおそれがあります。)

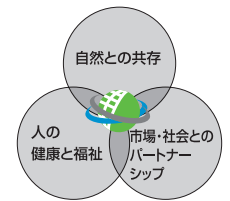
⚠ 安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないように注意してください。
- 散布時は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして衣服を換えてください。
- 公園等で使用する場合、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないようにしてください。小児、人畜等に留意してください。

- 漏出時は保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取り扱い、ていねいに行ってください。
- 飲めません。
- 有効年月内に使用してください。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしないでください。



バイエルクロップサイエンスでは、将来の世代のニーズを損なうことなく
現代のニーズを満たす、「持続可能な発展」のため、Protecting Tomorrow ... Todayをモットーに
① 人の健康と福祉 ② 自然との共存 ③ 市場・社会とのパートナーシップ
を柱として様々な活動を実施しています。



- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



Bayer

バイエル クロップサイエンス株式会社
エンバイロサイエンス事業部

〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5
【お客様相談室】0120-575-078

ホームページ

www.environmentalscience.bayer.jp

お問い合わせ先